

「本物に生まれ変わる計画」

■ フェイクニュース

イースターはクリスマス以上に大切で、毎日、その恵みを理解して過ごす事が大切です。

私たちは、クリスチャン的になっていないでしょうか。その病に冒されやすいです。せっかく救われ新しくなったのに、昔のクリスチャンでは意味がありません。私たちは自分が最初に受けた傷・弱さは人生の記憶に深く残ります。しかし、本当は神様に癒されています。しかし悪い奴は「癒えてない、傷ついている」と騙してきます。あなたはフェイクニュースに騙されていないでしょうか？

■ イザヤ書 53 章

『まことに彼は私たちの病を負い、私たちの痛みをになった (イザヤ 53 : 4)』

これは鳥が羽で覆う様に、イエス様が十字架で私達の病を負ってくれ、又コウノトリが運ぶ様に、私達の過去の痛みを運んで行ってくれたという事です。勝手に出て行ってしまふ雛が敵に狙われてやられてしまわない様に、親は遠くで見守りながら教え成長を待っています。私達が、羊の様にさまよひ、おのおの自分勝手な道に向かって行ったので、神は私たちの全ての咎をイエス様に背負わせたのです。でも真実が見えていない私達は、その姿を見て、「彼は罰せられ、神に打たれ、苦しめられたのだと」勘違いをしてしまいます。問題を見極める事ができないのです。羊が毛を刈られる時、最初は怖がって嫌がりますが、慣れてくると刈ってもらおうと風通しも良くなり、気持ち良さがわかってきます。同じ様に、教会に長くいると学ぶので刈り取られる事は恵みだとわかってくるのですが、最初は痛く感じるのです。

『しいたげと、さばきによって、彼は取り去られた。彼の時代の者で、誰が思った事だろう。彼が私の民の背きの罪の為に打たれ、いける者の地から絶たれた事を』 (イザヤ 53 : 8)

私たちは、神の摂理より、事実を目を向けて、真実を理解することはできません。

的を外して、真理を見ることができない私たち。その罪の為にイエスは十字架に架かられました。そして十字架上で父よ。彼らを赦してください。そう、祈って下さいました。

■ 神の摂理とは、神が働き、神の永遠の計画と目的を成就される事

人生で色々な事が起きる時、運が良いとか悪いとか言いますが、運ではなく、私達が生まれ変わる主の計画があります。災いでなく意味があります。あなたは、問題が起きた時に、深い神様の計画があると思う気持ちと、自分は駄目だと思ふ気持ちのどちらを選びやすいでしょうか？ 良い時に良い決断が出来るのは当たり前です。悪い時に良い決断をし、本当の自分である為に、何が失敗なのかを知らなければいけません。もし、自分が駄目な存在だと思っているのなら騙されています。失敗するから駄目なのではなく、自分の事を駄目だと思ふ事が失敗なのです。そして、私が駄目になる事を願い喜ぶ存在がいるから誘惑があるのです。あなたは完璧に神様に創られたと創世記にあります。その完璧な存在が不完全になったのなら治せばいいだけです。人生の中で本当の大切なチャレンジの時に良い決断が出来る為に、繰り返し起こるこの心の闘いを乗り越えて行く練習をしているのです。

車と同じ所を傷つけてしまう人がいますが、それがその人の運転の弱点です。自分自身の取り扱いを理解すれば問題ないのに、治っているのに、お前は駄目だという声に誘惑され騙され続けて、苦手意識を持ってしまい、もう辞めようと思ってしまう。神様は傷も治されますが、傷つかない方法を教えるので、隣に乗って運転の仕方を教えるのです。でも、私達は自分でハンドルを切ろうとするので、神様と一緒にハンドルを握ってくれて、私達

が自分でやっているように思える様に助けてくれているのです。

■ 人格的信仰的な成熟とは、自己中心を辞めて、神中心の考え方、生き方をする人の事

神の摂理に生きるには、自己中心では無理です。神の摂理はあなたが良くなる事ではなく神の計画と目的となる事を通して、あなたが本当の姿になる事だからです。本当の自分の姿がわからないのなら、委ねるしかありません。委ねているといつの間にか素晴らしい、人格的で信仰的な姿になっていくのです。でもまず、自分が自己中心だと知る必要があります。これが、人格的信仰的成熟のスタートだからです。成熟すると人と比較して、あの人より自分はまだまだだと思うのではなく、神様の前に自分が一番の罪人だと思ふ様になります。だから、たとえイライラしたとしても、戻る事ができます。私達は今、毎日、神中心の考え方になるように訓練を受けているのです。何か問題が起きた時、その事を通して、私を癒し、回復されていく、それがまさにイースターです。イエス様は、愛した弟子にも裏切られて、蔑まれても一言も言い訳せずに十字架に架かり、全ては完了したと言われました。完了したとは、私達の全ての罪、病が取りのけられたという事です。神が創られた物はみな良い物で、感謝して受ける時、捨てるべき物は一つありません (1テモテ 4 : 4)

■ 真実と事実

事実という現実の世界は、影響が大きいものです。私たちが見るべきものは「真実」です。・「真実」を見ていないと、神様から離れていきます。神様がいても、真実を見ないならば、人はどんどん的を外していきます。そして事実を目を向けていると真実は見えません。なぜなら、真実を見ようとする視線は事実をみている視線とは違うからです。

あなたは何を見ているのかと神様は言われています。でも、自分がどうしようもなくズレてしまう者であると気が付く事が出来れば、その事を悲しむ者であるなら神様の慰め癒しを受け取る事が出来るのです。

■ イースターの恵み

まだ真実がどこにあるかわからなくても、真実を見ようとする心を持ち、視線が変えられていく事が大切です。表面だけきれいに生きてても意味がありません。イエス様はご自身の人生の全てを、逃げたい心も、血のにじむ汗を流しながらこの杯を取りのけてくださいと祈った弱い姿も見せて下さいました。でもまっすぐに自分の生き方を貫かれました。この時代、誰もが十字架は罵られて神にも見捨てられた無駄死にで、意味が無いと思いました。でもその後、復活があり、事実しか見る事が出来なかった私達が、事実の背後にある真実を見る事が出来るようにされたのです。これがイースターなのです。重たい墓石はどけられ、過去の事実は関係なくなり、その後弟子達は自己中心から神中心になり、力強く宣教する者へと変えられました。教会は礼拝し、祈る場所ですが、事実しか見る事ができなくなった私達が真実に目を向けるチャンスが溢れている場所です。自分の人生はなぜこうなのかと思う時に、摂理がある事を教えてくれる場所です。イースターは暗闇の中から光を見せてくれた恵みであり、喜びの日です。だから、墓の中で死んでいた私達が真実を見る事が出来る為に、今日、素直な心で、神様の前に出て行きましょう。

(要約者:日名陽子)

(2022年 4月 17日)